

かなじけん
神事研ニュース
第177号



2015 (平成27) 年 1月22日

神奈川県義務教育諸学校事務研究協議会

会長 柿本みゆき

広報部長 高木淳一

平塚市立旭小学校

<http://kanajiken.net>

(0463-32-0136)

特集 第16回

神奈川県学校事務研究大会 大和大会

12月4日大和市生涯学習センターにて「第16回神奈川県学校事務研究大会大和大会」を開催しました。寒さに負けず熱気にあふれた大会の様子をお伝えします。

XX

研究大会大和大会の概要

XX

【基調講演】

国立教育政策研究所初等中等教育研究部、総括研究官、藤原文雄氏による「新しい時代に向け、学校事務を考える」と題しての講演がありました。

中教審の議論の中心は、教員でしたが1996年前後から「事務職員」という文言が議論に入るようになり、議論の動きが変化してきました。中教審の議論の今日的なキーワードとしては「チーム学校」であると挙げられました。

続いて、なぜ今「チーム学校」なのか、その理由は、学校に対する課題が増え、組織能力向上が必要とされているからであるとの説明がありました。また、学校にいる事務職員としてどう役立てるのか考えなければならないと説かれました。

さらに、学校事務職員の役割として、「スクールクラーク」と「スクールビジネスマネジャー」が混在していますが、今後は、スクールビジネスマネジャーへの転換が求められているとのお話がありました。

最後に、まずは良い先輩に出会い、良い型を身につけ、中堅層は怠けず、自己研鑽に励み、その後、職業人生を総括しながら後輩へつなげていく。厳しい財政の中、学校事務職員に追風が吹いている今こそ、成長し続けることが大事とエールを送っていただきました。

【研究発表 第I部】

平塚市立学校事務職員研究会から「連携から見出す強みと展開～わたしたちはこれで勝負する！～」と題して、研究発表が行われました。

平塚市全域で行われている事務連携について、若手学校事務職員3名による小劇場仕立てで発表が進められました。

はじめに、なぜ平塚市で事務連携が行われるようになったのか、その理由と経緯について、スライドをもとに説明がありました。

続いて、学校事務連携支援室の前身となった、学校事務連携組織について説明がありました。

最後に、現在、平塚市で実施されている学校事務連携支援室の詳しい仕組みや特徴について、Q

& A等を交えながら、解説がありました。

全編を通し、スライドとステージ、客席までをも駆使した、全く新しい形式での発表でした。

【研究発表 第Ⅱ部】

神事研研究部かながわ学校事務研究委員会から「心をひとつに挑戦しよう！『かながわの学校事務』～求められる学校事務職員であり続けるために～」と題して研究発表が行われました。

はじめに、研究委員会の発足の背景と神奈川県为学校事務職員の現状についての説明がありました。次に、学校事務職員についての自己分析として「学校事務職員制度」「少数職種」「職務内容」の話がありました。職の指定が市町村によって異なること、単数配置の新採用職員は、自分の職場に仕事を教えてくれる人がいないこと、適正に業務を遂行するための権限と責任を明確にしていかなければならないことなどが挙げられました。

続いて、実態調査から見えてくる神奈川県为学校事務の現状について話があり、学校事務職員が職指定されている現状や、共同実施等について見る事ができました。そして、教職員、行政、地域それぞれから見た、今後求められる学校事務職員について話がありました。目指す学校事務職員に向けて、閉鎖性と経験の積み重ねについての問題が挙げられ、これらを解決するためには「連携」が必要だということでした。

最後に、連携はチーム力で神奈川県为学校事務全体のレベルアップを目指していく第一歩としての提案であり、まず一人ひとりが連携をし、自分にできることから一つひとつ進めていくことが必要ではないかと話がありました。そしてその連携の先に見えてくる「新たな学校事務職員像」を提示することを目指して来年度行われる関東地区学校事務研究大会神奈川大会に向けて研究を続けていくとのことでした。

【研究協議 パネルディスカッション】

「新しい時代に向け、学校事務を考える」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。パネリストは、基調講演講師の藤原文雄氏、平塚市立学校事務職員研究会の加賀田啓介氏（平塚市立富士見小学校）、研究部かながわ学校事務研究委員会委員長の米澤賢二氏（藤沢市立白浜養護学校）、コーディネーターは、上村恭男氏（相模原市立淵野辺東小学校）でした。

はじめに藤原氏から神奈川県为学校事務の印象について、また二つの研究発表の総括などがお話されました。その後、藤原氏を中心に加賀田氏、米澤氏との活発な意見交流が行われました。

最後に、藤原氏から「若い時は難しいことを考えるのではなく、目の前の仕事をする事が大切だと思います。でも今日のような研究大会の中で立ちどまって勉強することも素敵なことだと思います。今日の議論の中で一つは現実を把握すること。まずは神奈川の現実を把握し、皆で共有し、そこから動きを作っていこうというメッセージでした。そのうえで新しい時代の教育を作っていくためのビジョンを探していこうという提案だったと思います。その一つの提案が『連携』でした。ビジョンを持って実際に動かしていくのは大変です。先輩達の歴史を積み上げながら現実を分析し、ビジョンを持ち、巻き込んで変えていく事が大切です。どんな組織もそこにいるのは一人の人です。いかに自分の人生を肯定的に受け止めて学び続けることができるか、学び続ける力こそが学校事務の未来につながるでしょう」と新しい時代へ向けての期待が語られ、パネルディスカッションは幕を閉じました。（詳細については別添の大和大会資料をご覧ください）